



平成 29 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 s M e d i o
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 田 中 俊 輔
(コード番号：3913 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経 営 企 画 室 室 長 北 埜 弘 剛
(TEL. 03-3452-1227)

平成 28 年 12 月期通期の連結業績予想と実績との差異、個別実績の前期実績との差異
および営業外費用（為替差損）の縮小に関するお知らせ

平成 28 年 11 月 10 日に公表しました平成 28 年 12 月期通期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたこと、および営業外費用（為替差損）が縮小しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 12 月期通期連結累計期間の業績予想と実績との差異

(単位：百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	1,269	230	81	38	19.57
実績値 (B)	1,282	175	38	△3	△2.04
増減額 (B)-(A)	13	△55	△43	△42	—
増減率 (%)	1.1	△23.8	△53.2	△110.0	—

2. 差異の理由

子会社の株式会社ブイログ（以下、「ブイログ」といいます。）に関する費用処理（約 2 千万円）、上海・台湾の開発拠点での期末仕掛在庫が想定より少なくなった等の影響（約 1 千万円）を主要因として、連結営業利益は予想を下回りました。

営業外費用（為替差損）の縮小（下記 4. 参照）が想定を若干上回ったことを主要因として、連結経常利益以下の利益は、減少幅が小さくなっております。

税金費用は、グループ会社各社の単体で計算されることから、各社の税金費用を積み上げた結果、連結経常利益よりも多い税金費用となり、親会社株主に帰属する当期純利益はマイナス

となりました。

3. ブイログに関する費用処理について

ブイログが製品・サービスの提供を開始して、一定の時間が経過し、その成果および課題を整理する中で、ブイログは、保有するソフトウェア資産（vlog クラウド等）を、IoT/Sensing サービスのプラットフォームとして活用し、BtoB および BtoBtoC 向けの事業に注力することといたしました。

ブイログの平成 28 年 12 月期の決算概要が明らかになるにつれ、IP カメラ他関連するハードウェア部材の処理を行ったこと等で、ブイログは想定よりも約 2 千万円多く費用を計上することとなりました。

今後、当社は、ソフトウェアの開発・販売会社であるという原点に立ち戻り、ハードウェア（ブイログカメラ等）を主体とする事業からは距離を置くことといたします。

4. 営業外費用（為替差損）の縮小について

平成 28 年 12 月期第 4 四半期（平成 28 年 10 月-12 月）において、保有米ドルの大半を米ドル建ての支払いに充当したことや平成 28 年 11 月以降に進んだ為替相場の円安を受け、為替差損が約 36 百万円縮小いたしました。

結果、平成 28 年 12 月期累計で、為替差損は 137 百万円（平成 28 年 1 月-9 月の累計では、173 百万円）となりました。

5. 個別実績の前期実績値との差異

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
平成 27 年 12 月期実績(A)	1,053	90	135	91	52.61
実績値(B)	1,023	143	10	0	0.38
増減額(B)-(A)	△30	52	△125	△90	—
増減率(%)	△2.9	58.7	△92.5	△99.2	—

6. 差異の理由

営業利益は、海外開発ソフトウェアに関する期中における円高の影響と開発の効率化により、当社単体での売上原価率が低減したこと等で、前期実績を上回りました。

一方、経常利益は、133 百万円の為替差損を計上したことにより、前期実績を下回りました。

以 上